

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：33920

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K21206

研究課題名（和文）臨床倫理コンサルテーションで初動者が必要とするスキルの明確化に関する研究

研究課題名（英文）Clarification of skills required by initial consultants in clinical ethics

研究代表者

深谷 基裕（FUKAYA, Motohiro）

愛知医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：00910879

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はCECの初動者がどのようなコンサルテーションスキルを用いているのかを明らかにすることを目的とした。全国展開する急性期病院でCECチームに所属し、初動経験がある14名に対面で半構造化面接を実施した。得られたデータを帰納的主題分析の手法を用い、生成されたコードを階層的に集約した。ASBHのコアコンピテンシーと比較すると、初動者は全コンピテンシーは必要ないが、知識を含む倫理的アセスメント、対人関係スキル、態度や姿勢を用いて対応していることが分かった。緊急性のある依頼があった場合、迅速な対応が求められ、最小限の情報収集から問題の目星をつけるアセスメントスキルが特に必要であると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国の多くの急性期病院では、医療者が倫理コンサルテーションを兼務をしながら実施している現状がある。また個人コンサルテーションよりもチームで活動していることが多い。そのため、相談者からの依頼を受け、情報収集する初動者の活動が倫理コンサルテーションの質を左右すると言ってもよい。本研究結果は、この初動者に必要とされるスキルを明確にした初めての研究である。本研究結果をもとに、倫理コンサルテーションの初動者の教育において、知識に加えて、事例をもとにした倫理的アセスメントスキルを育成するカリキュラムの開発をしていくことが有用であろうと示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify what kind of consultation skills first-time CEC workers use. Semi-structured interviews were conducted with 14 people who belong to CEC teams at acute care hospitals. The data obtained was analyzed using an inductive thematic analysis method, and the generated codes were hierarchically aggregated. Comparing ASBH core competencies, it was found that first responders do not need all the competencies, but use ethical assessment, including knowledge, interpersonal skills, and attitudes and attitudes. When there is an urgent request, a quick response is required, and assessment skills to identify the problem from the minimum information gathering are considered particularly necessary.

研究分野：臨床倫理

キーワード：臨床倫理 倫理コンサルテーション 初動者 初動行動

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の救急医学の発展により患者の救命率は上昇したが、人工呼吸器や補助循環装置など望まない治療を継続する患者が増え、倫理的課題が取り上げられるようになった。これに対して厚生労働省は2018年に「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を公表し、このなかで本人、家族、医療・ケアチームとの話し合いの中で妥当で適切な医療・ケアの内容について合意が得られない場合など、複数の専門家からなる話し合いの場を別途設置し、方針等についての検討及び助言を行うことを求めている。

(2) 倫理コンサルテーションは個人、委員会、チームコンサルテーションの3つのモデルがある。個人は機動性に優れ、施設への導入手続きが手軽である反面、コンサルタントが孤立し、多角的に問題を分析しづらい特徴がある。委員会は、多角的な視点で検討できるが、メンバーを招集するのに時間がかかるため緊急性のある依頼に対応できないという特徴がある。チームモデルは委員会と個人のメリットを一定程度併せ持った形態で、倫理コンサルテーションを立ち上げる時は最も合理的であるといわれている。

米国生命倫理学会（American Society for Bioethics Humanities、以下ASBHとする）は倫理コンサルタントに必要なコア・コンピテンシー（Core Competencies）を「知識」（knowledge）、「スキル」（skills）、「資質・態度・行動」（attributes, attitudes, and behaviors）に区分して示している。米国では倫理コンサルタントが資格化され、その数は増加傾向にある。これに対して日本では臨床倫理学会が臨床倫理認定士の認定制度を開始したが、まだ認定者は少ない。今後チームコンサルテーションが増えていくと考えられ、チームコンサルテーションの実践的なスキルが明確化される必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、臨床倫理コンサルテーション（以下、CECとする）で初動するチームメンバーが、急性期医療機関で起こる倫理的問題に対してどのようなケースコンサルテーション・スキルを用いているのかを明らかにすることである。これにより患者、家族と医療者が満足していく、日本の医療現場で実行性のある臨床倫理コンサルテーション体制の確立に必要な示唆を得る。

3. 研究の方法

本研究のデザインは質的記述的研究デザインを採用した。同一理念のもと全国展開する急性期病院でCECチームに所属し、初動経験がある看護職5名に同意を得て、対面で半構造化面接を実施した。得られたデータから逐語録を作成し、帰納的主題分析（Boyatzis 1998）の手法を用い、生成されたコードを階層的に集約した。

4. 研究成果

研究参加者は3医療機関5名（専門看護師2、認定看護師2、助産師1名）であった。分析の結果、6テーマ、10個のカテゴリ、37個のサブカテゴリが抽出された。今回は主要テーマである3つを記述する。

テーマ1：倫理コンサルテーションの基盤となるスキル

このテーマには、＜倫理コンサルテーションの基盤としての構え＞という1カテゴリ、《倫理コンサルタントとしての揺らがない考えをもつ》《先入観を持たず素直な気持ちで関わる》《初動者がもつ専門資格の役割を意識して活動する》《相談を受けている立場であることを客観的に意識する》《患者さんのケアに直接関わらない立場をとる》という5つのサブカテゴリが含まれていた。研究参加者の語りでは「医師寄りになってみたり看護師寄りになってみたりっていうのがありますけど、でも一応、間に入ったからには考えがぐらついちゃいけないのかなと思っていて、要は自分の考えを取りあえず1本持っておこうみたいな」と看護職ではあるが倫理コンサルタントとしてかかわる際は揺らがない姿勢をもつように意識されていることを語っていました。

テーマ4：倫理コンサルテーションの相談者との対人関係スキル

このテーマには、＜相談者の訴えに対する積極的傾聴＞＜相談者も関係者も話しやすい態度や姿勢＞＜相談者への迅速なアプローチ＞の3カテゴリ、《相談者が相談したいことをすべて話してもらおうように促す》《相談者の話す内容をありのままに聞く》《相談者が話しやすい問いかけをする》《相談者が話しやすい雰囲気を作る》《相談者とフラットな立場をとる》《改まったセッティングにならないように聞く姿勢をとる》《対面での聞き取りは時間を区切って聞き取る》《相談者を待たせずに速やかに聞き取りをする》など、10のサブカテゴリが含まれていた。研究参加者は、「ひたすらまず聞く、（中略）まず相手のその思いというか、受けたそのモヤモヤの内容をとりあえず聞く」と語っていた。

テーマ5：倫理コンサルテーションのケースアセスメントスキル

このテーマには<初動の際に必要な最低限の情報収集><初動時の情報収集で意識すべき視点><ケースの緊急性の判断>の3カテゴリ、《電話で聴き洩らしがないか確認をして、質問する》《相談者からの情報を整理する》《患者が置き去りにされていないか思考する》《ケースの緊急性を見極める》など14サブカテゴリが含まれていた。初動者は依頼の連絡があると、誰が困って相談に来ているのか、緊急性はどうかを確認しながら、情報を取集し、整理をしていた。

ASBH のコアコンピテンシーと比較すると、初動者はすべてのコンピテンシーは必要ないが、知識を含む倫理的アセスメントスキル、対人関係スキル、態度や姿勢を用いて対応していることが明確になった。緊急性のある依頼があった場合、初動者は迅速な対応が求められ、最小限の情報収集から、アセスメントして問題の目星をつけるスキルが必要であり、事前のトレーニングが必要なことが示唆された。

<引用文献>

American Society for Bioethics and Humanities (2011). Core Competencies for Healthcare Ethics Consultation(second Edition). American Society for Bioethics and Humanities

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 深谷基裕
2. 発表標題 臨床倫理コンサルテーションで初動する看護職の用いているケースコンサルテーション・スキル
3. 学会等名 日本臨床倫理学会第11回年次大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------